

相談援助実務経験者が相談援助演習に求める教育プログラム

～実習免除者の演習教育に対するインタビュー調査より～

日本福祉大学 小松尾 京子 (4895)

杉本 浩章 (日本福祉大学・3954) 明星 智美 (日本福祉大学・4516)

齊藤 晋治 (日本福祉大学・8156)、岡部 真智子 (静岡英和学院大学・5969)

キーワード：相談援助実務経験者 演習教育 実習免除者

1. 研究目的

平成 21 年度から新・社会福祉士養成制度が始まり、相談援助実務経験による相談援助実習の履修免除制度が大学にも適用されることとなった。しかし、相談援助実習の履修を免除された者（実習免除者）に焦点をあてた演習教育のあり方については議論が不足しており、その実態も把握できていない状況にあるといえる。そこで本調査研究では、本学通信教育課程で、実習免除者を対象に実習免除者が相談援助演習に求める教育プログラムを明らかにすることを目的として、相談援助演習に関するグループインタビューを実施した。

2. 研究の視点および方法

本調査研究は、実習免除者の演習教育に関するインタビュー調査であり、実習免除者に対する演習教育プログラムを検討するための調査である。本学の通信教育課程では、表 1 にあるように、演習科目スクーリング（面接授業）を、3 年次に相談援助演習 として合計 3 日間、4 年次に相談援助演習 として 2 日間の合計 5 日間実施している。

表 1 本学の相談援助演習カリキュラム

3 年次		4 年次			
10 月	12 月	1 月	3 月	4 月	2 月
相談援助演習		相談援助演習		相談援助演習	
テキストを用いた在宅学習 120 時間		テキストを用いた在宅学習 144 時間		テキストを用いた在宅学習 144 時間	
スクーリング 10 時間		スクーリング 18 時間		スクーリング 18 時間	

グループインタビューの対象者は、相談援助演習 の履修を終えた実習免除者である。全履修者 834 名のうち実習免除者は 336 名で、そのうち入学時点で相談援助業務に携わっていた学生であることを基準に協力者を募り、15 名（男性 4 名、女性 11 名）を調査対象とした。2011 年 2 月に東京、名古屋、大阪の 3 会場で各 2 時間程度のグループインタビューを実施した。

インタビューデータは、すべてを逐語録にしたうえで分析を行った。分析の手順は佐藤郁哉\*の方法により以下のとおり行った、 会話記録のテープ起こし、 会場ごとにデータのコーディング作業、 オープンコーディングから焦点的コーディングを行い、カテゴリ

表を作成、研究協力者による作業の点検、研究協力者の点検をもとにカテゴリの修正と上位カテゴリの統合。なお、研究協力者については、通学課程および通信課程の実習・演習担当教員、一般養成校での社会人に対する実習・演習教育経験者の3名に依頼した。

### 3. 倫理的配慮

倫理的配慮として、調査対象者に対して研究の目的、方法、意義、匿名性の保持、結果の公表の方法等について口頭と文書で説明し、調査協力への同意を得た。

### 4. 研究結果

オープンコーディングの結果、180のオープンコードを抽出した。それに対し焦点的コーディングを行い、最終的に35のカテゴリを生成した。そこから5つの上位カテゴリを生成した。カテゴリと上位カテゴリは、表2のとおりである。

表2 カテゴリと上位カテゴリ表

上位カテゴリ	カテゴリ(例)
現場で求められ自らも必要性を感じる社会福祉士資格	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場で社会福祉士資格を求められる立場</li> <li>・今後の仕事を考えて資格をとりたい</li> </ul>
実践の場で大切にしている価値と技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者のサインを見逃さない</li> <li>・現実と理想の間の苦しみ</li> </ul>
大学で学ぶことのよさ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学で体系的に学ぶ</li> <li>・成長している実感と専門性を問われる</li> </ul>
演習の授業を受けて感じたこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習後にふりかえり見えてきたこと</li> <li>・演習で習ったことを実践してみる</li> </ul>
大学の演習教育に求めること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の経験や出会いを活かした演習</li> <li>・基本をもとに専門性を向上させる演習</li> </ul>

### 5. まとめ

実習免除者は内発的・外発的な要因によって社会福祉の専門性を問われ、社会福祉士資格の必要性を認めている。そして、専門的な価値に基づく知識や技術の修得に主眼を置いて学んでいた。しかし、その学び方は実務経験と照らし合わせて取り組むなど、実務経験があるゆえの特徴がみられた。本調査によって、実習免除者に対する演習教育プログラムの開発の必要性が示唆された。

なお、この調査は、「社会人学生を対象とした社会福祉士養成教育に関する研究」(文部科学省科学研究費 課題番号 22530638)の助成を受けたものである。

\* 佐藤郁也(2008)『質的データ分析法 原理・方法・実践』新曜社